

第3回鳴門教育大学運営諮問会議議事要録

日 時 平成13年11月12日(月) 14:00~16:15

場 所 ルネッサンスリゾートナルト 8階「マジイルーム」

出席者 井内 慶次郎 会長 ((財)日本視聴覚教育協会会長)
桑原 信義 副会長 ((株)徳島銀行相談役)
亀井 俊明 委員 (鳴門市長)
佐藤 修策 委員 (湊川女子短期大学長)
高木 弘子 委員 (元 徳島県教育委員会教育委員長)
中野 重人 委員 (日本体育大学教授)
野原 明 委員 (文化女子大学教授)

欠席者 大塚 公 委員 (大塚化学(株)代表取締役会長)
高倉 翔 委員 (明海大学長)
松村 通治 委員 (徳島県教育委員会教育長)

陪席者 溝上学長, 佐々木副学長, 藤原副学長, 田浦事務局長,
橋本図書館長, 山本学校教育実践センター長, 田中第1部主事,
高橋第2部主事, 齋藤第3部主事, 長岡第4部主事, 前田第5部主事,
その他事務局職員

会議次第

1 学長挨拶

開会に先立ち, 溝上学長から本会議への出席に対するお礼と挨拶が述べられた。

2 開会

井内会長から, 会議の開会が告げられた。

3 委員紹介等

井内会長から, 徳島県教育委員会教育長の人事異動に伴い, 本会議委員が青木武久氏から松村通治氏に交替した旨の説明, 及び今回は松村委員, 高倉委員, 大塚委員が都合により欠席している旨の報告が行われた。

4 資料確認，日程説明

総務部長から，配付資料の有無の確認及び日程説明が行われた。

5 議事

審議に先立ち，溝上学長から配付資料等に基づき，本学の創立20年の歩みと課題（創立の理念 大学の歩み 実績 課題 課題解決策 大学の活動 評価）の概況報告が行われた後，教員養成大学・学部の再編・統合問題に関わる「四国教育大学（仮称）」構想について，次のとおり説明が行われた。

〔教員養成大学・学部の再編・統合への対応〕

本学が提起した「四国教育大学（仮称）」構想は，四国の各地域の多様性の中の統一性を求め，各県における教員養成体制から四国ブロックにおける統一的な教員養成体制への転換を図ることである。この構想における統合の形態は，「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」報告書の中で再編・統合の基本として示されている。

四国教育大学構想の実現に向けては，もちろん他大学の同意を得ることが一番重要となるが，懇談会の報告書に準拠し，各々の大学の伝統も尊重しつつ，新しい体制を確立することが必要となる。

今後，他大学とは，四国地区国立7大学長懇談会の下に置かれた教育系専門協議会で協議していくことになるが，平成14年度の早い時期に結論を出し文部科学省との協議に入りたいと考えている。

【審議】

(1) 教員養成大学・学部の再編・統合問題について

（ §：委員の発言等， ：大学側の発言）

§ 教育系専門協議会での他大学の意見等はどうであったか。

各大学とも歴史と伝統があるため，また心情的にも教員養成を残したい気持ちが強く伝わる発言内容であった。

本学としては，教官数から考慮しても，単独では今後の発展は期待できないため，一つに結集し，四国全体の教員養成を考えるべきであると説明し，理解を求めている。

§ 「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」報告書は，11月22日の提出を目途に調整中である。再編・統合を論議する場合，中教審・教員養成部会の中間報告も視野に入れていただきたい。

§ 教員養成大学・学部の再編・統合問題は、文部科学省プランによる全体的な再編・統合と関連しているため、全体的な改革も十分に視野に入れ、教員養成・研修の中心として鳴門教育大学が再編・統合のリーダーシップをとっていただきたい。

§ 鳴門教育大学が中心となって再編・統合のイニシャティブを取る場合、一般大学となる大学に「教職センター」を整備することが必要である。

§ 私が勤務している私立大学では、費用対効果の考え方で教員養成は難しいという理由で一部を残し廃止した。また、今後の18歳人口の動態を調べると、10年先までは減少していく傾向にある。したがって、他大学を説得する材料として、費用対効果と18歳人口の漸減という面からも協議を進める必要があるのではないかと。

また、大学側から教育委員会に対して物申すという視点がないように思う。10年、20年先の学校教育がどうあるべきかを大学側から提案すべきではないかと。

§ 教員養成大学・学部においては、今後、さらに厳しい対応がせまられることになると考えておかなければならない。したがって、他大学には現状と将来の見通しを説明し、再編・統合は必要であるという方向に持っていく必要があるのではないかと。

四国全体の教員養成大学・学部の卒業生450人に対し、現在の教員の採用枠は200人である。半数以上は四国から出なければならぬというのが実態である。今後も厳しい状況であろうと予測される。

そういう中で、本学としては教員採用試験対策として特別プログラムも組んで対応している。

§ 統合問題については、四国を一単位にして考えるのが良いと思うが、その場合、問題になるのは新構想大学の役割だと思う。もともと新構想大学は、教育実践や実践教育学を核としているが、このことについては教育委員会から十分な評価を得られていないのではないかと。統合後も教育実践力を強力に推進していかなければ教育現場のニーズには応えにくいのではないかと。

二点目として、以前はタブー視されていたが、今後は専門大学院として、専修免許状も含めて、教育現場や県の教育行政をリードしていく人材養成も前面に出す必要があると思う。

最後に、教育委員会に大学側が教えるという立場ではなく、大学の先生方が教育現場に出てじかに教育に触れることが、連携の基本ではないかと考えている。

§ 四国教育大学構想は大変良い構想だと思う。他大学の賛同を得るのは難しいようであるが、現状のままだと各大学の教育学部は実態に合わなくなってくるのではないかと思っている。したがって、教育学部を持っている大学及び教員養成大学の考え方を一本にまとめるためには、国全体として文部科学省が中心となり考えていく必要があると思う。

もう一点は、現場の教員を大学院で再教育することは非常に重要であると思う。したがって、そういう意味では、鳴門教育大学は四国の他大学の教育学部と連携するよりも、むしろ3新教育大学を一本化して、内容を充実させ中身を特化する方が良いのではないか。

§ 四国教育大学構想は大変思い切った提案であると思うが、教員養成をそれぞれの都道府県で行ってきたこれまでの方式への影響は非常に強いと思う。この方向でまとめていくことができれば素晴らしいことだと思う。

もう一つは、新構想大学と従来の教育学部の教育研究体制との違いを明確にさせるために、学力問題や今日的な課題等にも対応できるということをカリキュラムや教育研究体制の中で示していただきたい。

§ 県にある「教育研修センター」と「地域連携教育研究センター」との違い、連携・協力の在り方について明確にしておく必要があると思う。

§ 教育大学は、専門分野の研究活動を行う部門とそれを実際の学校の授業等に応用していく部門を持っているように思う。立派な研究者が必ずしも立派な教育者ではない場合もあるので、この両部門をどのように調整していくかが重要なのではないか。特に大学院において研究面と教育面をどのように調整していくかという基本的な問題について、鳴門教育大学はどう考えてるのか。四国の大学を集めてトップ30を目指すのか、鳴門教育大学の延長で特色ある部分を追究していくのか、その辺を明確にする必要があるのではないか。

基本的な事項というのは根底になければならないと考えている。

学生をどこで教育するかという場所の問題があると思うが、鳴門でなければならないということではなく、四国全体で考えればよいと思う。それぞれの地域で特色ある教育を行っているが、それらを合わせれば四国の教育大学として大きな力になると考えている。

従来型の総合大学の教育学部と新構想大学とどこが違うかという問題は、大きな課題である。新構想大学でなければならないことをはっきり示す必要がある。もともと新構想大学においては、実践力のある教師の養成を目指し教育実習を重視しているが、教員養成は地域と一体となり行っていく必要があり、新しく、しかも有効な方法を開拓して、他に示すことが新構想大学としての使命

だと考えている。

大学院においては、学校現場でのリーダー、県の教育をリードしていくような人材を養成する必要がある。単なるレベルアップのためだけの大学院ではなく、個人研究から一歩進んでお互いに協力してチームで教育研究を行うことが、教育の向上・発展につながっていくと考えている。

§ 鳴門市は、鳴門教育大学が市内にあることを大きな財産だと思っている。鳴門市内の小・中学校には複式学級から大規模校まであり、抱えている課題もいろいろなパターンがあるため、教育実習等の活用の際には全面的に協力したい。

四国教育大学構想に関連して、行政としても交通網の整備を考えている。近々、高速道路で4県都が直結されれば、高速鳴門バス停をハブターミナル化し、鳴門への利便性を高め、四国教育大学の玄関口にふさわしいハード面の整備も進めていきたい。

今後は、行政と大学が一体となって、相互協力のもとに様々な取り組みを行っていききたいと思っている。

鳴門市と大学の間では、ドイツ館を中心とした共同研究を行っている。また、四国遍路の研究にも取り組んでおり、このような共同研究等をさらに押し進めたいと考えている。

§ 今後、四国教育大学構想を具体的に構築していくに当たっては、他の地域と違った四国の特色というものも押さえ検討していただきたい。

(2) その他

§ 以前から課題になっているが、全般的に見て卒業生の教員への採用者数が非常に少ないと思う。大学院は、現職教員の再教育ということで大きな役割を果たしていると考えている。

今年の教員採用試験の状況は、昨年度と比較して、県教委側の採用人数の増加もあり伸びている。

§ 修了生が管理職に採用されるのは、年齢的にみてこれからだと思う。

§ 大学院における授業評価の先駆的な実施には感服している。さらに現職教員のニーズや専修免許状が求める高度な指導力等の観点をもう少し前面に押し出した評価を期待している。

以上のような意見等が出された後，井内会長から，今回の各委員からの意見等を今後の再編・統合に反映してほしい旨の要望が出され，溝上学長から今後の決意と感謝の言葉が述べられた。

6 閉会

井内会長から，第3回運営諮問会議の閉会が告げられた。

以 上